

クッションングテクノロジーの“見える化”が NIKEのブランド価値を大きく引き上げた

ユニット内のエア搭載量アップに加え、当時の最新スニーカーテクノロジーの“見える化”を図り、NIKEブランドの価値を向上させたテクノロジーが“VISIBLE AIR”だ。象徴的なプロダクトであるAIR MAXシリーズでは度々“MAX AIR”とも表記されている。“AIR”を搭載したシューズは良好なクッション性を発揮していたものの、ヒール部に負荷が掛かり、エアユニットが変形した際の“逃げスペース”が無い点が懸念されていた。その解決策としてミッドソールのヒールサイドに窓を開け、変形したエアユニットの逃げスペースを確保したのがVISIBLE AIRが開発された理由だと伝えられている。もっともマーケティング戦略に長けたNIKEだけに、AIRユニットの“見える化”で競合ブランドとの差別化を目論んだであろう事も想像に難くない。テクノロジーとしては旧式化したVISIBLE AIRにも関わらず、今なおファンの物欲を刺激するアイコンとして認知され続けている事実は、マーケティング戦略の正しさを証明しているのだ。

2023年には“VISIBLE AIR”の歴史において、トピックとなるスニーカーが復刻を果たしている。一般的に初代AIR MAX 1の登場は1987年3月26日とされ、3月26日は“AIR MAX DAY”と呼ばれているが、コアなファンであれば1986年に流通した先行販売版AIR MAX 1の存在をご存知だろう。1987年版のAIR MAXと比べるとヒールサイドのVISIBLE AIRがひと回り大きく、後のヴァンテージ市場では“BIG BUBBLE”と呼ばれていた。このBIG BUBBLEは実際の流通量が限定され、国内で目にする機会は殆ど無かったが、1987年当時の広告に掲載され90年代のストリート誌でも度々紹介されていたため、それなりの知名度を獲得していた。ここで紹介する復刻版のAIR MAX 1は、ティンカー・ハットフィールドが考案し、耐久性の面から本格生産が見送られた“BIG BUBBLE”ディテールが忠実に再現されている。発売から約37年の時間を経てようやく具現化された、“AIR”を愛するファンにとっては記念碑となる復刻モデルなのだ。

AIR MAX 1 86 OG
BIG BUBBLE

Release year: 2023
Style code: DQ3989-100
ライター:私物

